

事務事業評価シート

(平成 25 年度実施事業)

事務事業名	し尿収集運搬委託事業			事業コード	0283
所属コード	045400	課等名	資源循環推進課	係名	収集管理係
課長名	中村 俊行	担当者名	猿舘 健太郎	内線番号	8323
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	環境との共生	コード	6
	施策	生活環境の保全	コード	1
	基本事業	環境衛生の確保	コード	1
予算費目名	一般会計 4 款 2 項 1 目 (007-01) し尿収集運搬委託事業			
特記事項	平成 25 年度で終了			
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 12 年度	
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律			

(2) 事務事業の概要

東部山間地域のし尿収集を市が業者に委託することにより実施し、収集体制の安定化を図る。

(3) この事務事業を開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

し尿の収集は市から許可を得た業者が行っていたものの、東部山間地域は地理的条件から市条例の標準金額による収集運搬が困難なため、平成 12 年度から市が業者と委託契約を締結する体制になっている。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

委託区域については、築川道路工事の影響で一時的に汲取量が増加したが、工事完了とともに、建設会社等が利用していた仮設トイレが撤去され、結果として平成 25 年度は平成 24 年度よりも汲取量は減少した。また、利用者の高齢化に伴い同地域から退去する住民も見込まれ、汲取量は減少していくものと考えられる。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が、何が対象か)

盛岡市東部山間地域 (上米内字の一部, 新庄字の一部, 浅岸字の一部, 川目の一部 (第 1 地割 ~ 第 4 地割), 築川, 砂子沢及び根田茂) の住民及び事業者

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 見込み
A 収集世帯数及び事業所数	件	148	147	150	132	—
B						
C						

(3) 25年度に実施した主な活動・手順

当該地区の住民及び事業者から収集依頼を受け、し尿を収集する。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 目標値
A 収集量	ℓ	196,650	207,180	200,000	203,990	—
B 収集回数	回	398	406	400	390	—
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

当該地区におけるし尿の適正な処理を図る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 目標値
A 収集に係る苦情件数	<input type="checkbox"/> 上げる <input checked="" type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	件	0	0	1	1	—
B 使用料の収納率	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	%	88.8	90.2	95.0	100	—
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	25年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	344	422	414	403
	⑤その他(し尿収集運搬手数料)	千円	1,506	1,550	1,463	1,588
	A 小計 ①～⑤	千円	1,850	1,972	1,877	1,991
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	186	186	185	186
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	744	744	740	744
計	トータルコスト A+B	千円	2,594	2,716	2,617	2,735
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

安定した収集が図られ、衛生環境が守られている。

② 市の関与の妥当性

市が事業者に委託することで、当該地域での安定した収集が行われ、環境衛生が確保されるものであり、市の関与は妥当である。

③ 対象の妥当性

当該地域は山間地という特殊性に配慮したものであり、対象は妥当である。

④ 廃止・休止の影響

市が当該地域のし尿収集運搬の委託事業を廃止すれば、当該地域におけるし尿の安定収集が難しくなり、環境衛生の確保も困難になる。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

収集依頼のあったし尿については、し尿処理業者が全て収集し適正に処理している。

平成26年3月までの汲取りに係る使用料の収納率については、個別訪問等により向上が見込まれる。

(3) 公平性評価 (評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要)

当該地域の住民が特定の受益者となるが、費用の一部は市が負担するものの、大部分は当該地域の住民等が自らし尿収集運搬量に応じた手数料及び使用料を負担することになっている。また、衛生環境の確保は特定地域に限られるのではなく広く公共の福祉に寄与するため、これらのことを踏まえれば、公平性の評価を得られるものである。

(4) 効率性評価

市が直営でし尿の収集運搬を行うとなれば、人員及び車輛等の機材が必要であり、し尿収集運搬業務を委託することで、経費を削減することができる。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

し尿収集運搬業務委託に係る事務量の縮減と住民サービスの向上（手数料等の納付方法の利便性向上）を目的として、平成 25 年度で委託制を廃止し、平成 26 年度からは他の地域と同様に許可制に改めたうえで、当該地域に係る収集については、し尿処理業者に対する補助事業とし、当該地域の衛生環境の確保を図る。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

し尿の収集運搬体制及び料金の支払方法が変わったことについてはチラシ等で周知しており、現時点で移行による問題は生じていないが、引き続き周知を図る。また、事務的には、し尿処理業者に対する補助事業に係る予算が不足した場合に、その対応が問題である。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

し尿の収集運搬については、東部山間地域の生活環境保全のため事業を継続する必要があるが、現在の委託方式については、市民サービスの向上及び事務効率の向上の観点から、事業者へ補助を実施する方式に見直す。